

令和3年1月吉日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
水産資源研究所
水産資源研究センター長

資源評価ピアレビュー報告書への対応について

令和2年10月2、6、21、22日に平成31年度（令和元年度）のさば類4系群の資源評価結果について日米の専門家（Steven Teo 博士、後藤友明博士、岩田繁英博士）のレビューを受けました。いずれも優れた研究者であり、本質を突いた多くの指摘を頂きました。主な指摘事項は以下の通りです。

- 1) 日本海、東シナ海の資源における、中韓両国の漁獲データの取得困難に起因する問題
- 2) 年齢別漁獲尾数や生物パラメーターの不確実性に関する問題
- 3) 自然死亡係数に関する問題
- 4) 資源評価プロセスにおける不確実性の取り扱いに関する問題

そのほか数多くの細かい指摘を受けています。

水産資源研究センターでは、これらのご指摘を別紙の表にとりまとめ、担当研究者を中心にそれらへの対応方針を示しました。

現行の分析や報告書の記述を充実させることについては、既に着手している事項もありますので、今後の資源評価に適用してまいります。年齢別漁獲尾数を作成するためのデータの充実や、直近の予測に影響する加入量推定の精度向上についても、調査拡大等に努めます。

現行のモデル以外の資源評価モデル開発や、モデルに用いる各種パラメーターを見直していくという大きな課題もありますが、NPFCのもとで国際資源評価を展望した検討がされているマサバ太平洋系群の状況もふまえて対応してまいります。

時間を要する課題や担当研究者の努力のみによって解決できない事項もありますが、関係者のご協力を得ながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上